

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立飯田高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	分析(成果と課題)及び次年度の扱い
1 多様な進路希望を実現するために、思考力・判断力・表現力の醸成による相応な学力養成	① 教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	1・2学年の1月模試で国数英3教科の偏差値60以上10%、55以上20% 50以上50%を目標基準とする。 A:すべて達成 B:2つ達成 C:1つ達成 D:達成なし	1月模試の結果は、 1年60以上17%、55以上46%、 50以上68%でA。 2年60以上23%、55以上46%、 50以上63%以上でA。	A (進路指導課)	生徒・学年団ともに努力し良い結果となった。課題となっていた1年生中・下位層の底上げもなされた。
	② 進路実現可能な学力を身に付けるために自立的学習習慣を定着させる。	進路アンケートで家庭学習時間を確認し、学年+1時間を達成している生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	1年は 平日2.5% 夏休み13% 冬休み16% D 2年は 平日0% 夏休み3.6% 冬休み15% D	D (進路指導課)	長期休業中は夏休みに比べ、冬休みは改善がみられる。模試対策・検定対策によって学習時間が増えたことが影響したと考えられる。引き続き具体的な課題を出すなどして家庭学習を促す指導を行うとともに、自立的な学習につながる授業を心掛ける。また次年度に向けて、進路アンケートの質問項目の見直しを検討する。
	③ 公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:60%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	「A」判定はいなかったが、希望者8名全員が「B」判定をとり、昨年より確実に力がついたと思われる。	A (進路指導課)	模試ごとに見直しをしっかりと、また部活動引退後にはきちんと切り替えをし、勉強に集中できた。
	④ 研究授業、互見授業を通して、探究的な学習活動や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推し進める。	授業改善への取組に年間を通じて参加した回数の平均が A:5回以上 B:4回以上 C:3回以上 D:3回未満 授業を通じて学力(思考力)がついてきているとする肯定的な評価が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	授業を参観した回数の平均は、5.7回であった。 第2回授業改善アンケート項目「この授業で学力がつく」について、「当てはまる・だいたい当てはまる」と評価した生徒は、全体の92%であった。	A (教務課) A (教務課)	今年度は教科指導訪問等により参観数が増加したため、A評価であったが、互見授業の実施数は少なかった。 授業改善アンケートだけでは、実態に即した結果となっていない。次年度以降、外部模試結果と組み合わせる等の工夫が必要であると考ええる。
学校関係者評価委員の評価	・時代の変化とともに指導の仕方や評価の方法なども変革のときだと思う。生徒にある程度の自由度を持たせてあげるなど、新しい指導の在り方が求められているのでは。				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	・毎年同じような授業をこなしていくのではなく、生徒の知的好奇心を掻き立てるような授業作りを常に研究しなければならない。教員間で連携を取りながら、学校全体の教育力を高めていく組織力の強化に向けた取組を検討していく。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	分析(成果と課題)及び次年度の扱い
2 人間関係力の向上による組織力の強化と社会に開かれた学校づくりの推進	① 「ゆめかな」の活動を地域の方をはじめ多くの方に認知して頂き、発表会への参加者を増やす。	年2回行われる「ゆめかな」発表会の参加者が前年に比べて A:150%以上 B:120%以上 C:100%以上 D:100%未満	年2回の「ゆめかな」発表会の集計を行った。H30年度の参加者は114名。R1年度は151名で前年比は132%であった。	B (総務課)	今年度はA2判のポスターを作成し、様々な場所に貼っていただいた。また、HPやSNSを利用した宣伝も一定の効果を上げた。来年度以降も、参加者が多く見込める開催時期について検討していきたい。
	② HR活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	校内の活動で、十分な意見交換や協働した取組が日常的に達成できたと考える生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生徒アンケートで評価達成できた生徒は 1年 96% 2年 98% 3年 88% 全体 94%	A (生徒指導課)	生徒会行事に一人一人が真剣に取り組んだ結果として、集団づくりや人間関係づくりへの自己評価が高いと思われる。
	③ 携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と、1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒1人あたりの携帯・スマートフォンの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	生徒アンケートで評価 1年 96分 2年 85分 3年 75分 全体 86分	D (生徒指導課)	SNSの使用ルールは概ね遵守できた。学習時間の確保の点からも、教務課・進路課と連携した取り組みを行いたい。
	④ 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	「遅刻0の日」が年間合計で A:160日以上 B:140日以上 C:120日以上 D:120日未満	授業日数179日 遅刻0の日は、55日。	D (生徒指導課)	特定の生徒2～3名が遅刻を繰り返した。生徒指導と教育相談の連携が必要である。「遅刻0運動」の新しい評価方法についても検討の余地がある。
	⑤ 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	日常的に挨拶をしっかりとできたり、規則を守ることができた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生徒アンケートで評価達成できた生徒は 1年 99% 2年 98% 3年 87% 全体 95%	A (生徒指導課)	生徒の自己評価は高かったが、6月に大きな交通事故があった。登下校について、交通安全上の問題がないかを常に検討したい。
学校関係者評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> 「ゆめかなプロジェクト」を通して、生徒たちがもっと地域の中に入ってほしい。伝統を形に残していくことができるように関わってほしい。 スマホの利用時間を改善していくような指導よりも、いかに有意義に使うかなど、使い方に関する指導が必要。外部と連携した指導も良いのでは。 生徒たちにスマートフォンの利用に関する規則を作ってもらい、守ることができるような取り組みにしてみようか。 				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「ゆめかなプロジェクト」においては、目標設定や目標達成のための活動内容が計画的に進められていないグループは外部の方との接触到消極的である。教員が生徒に対してどのようなアプローチを行うべきか、教員同士で検討していく。 能登地区高P連で「スマートフォン等の使用をガマンする運動」の取り組みも行っており、利用時間に関する呼びかけはしているが、なかなか浸透していない状況。今後指導の方法を検討していきたい。 				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	分析(成果と課題)及び次年度の扱い
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と連携した活動の推進	① 普通科・総合学科の生徒が合同で1つの研究テーマを設定し、互いに協力しながら探究活動を行う。	普通科・総合学科合同の「ゆめかな」への取組に対して、生徒の満足度が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	2月の発表会後の生徒アンケートで評価を行う。生徒アンケートの結果、満足であったと答えた生徒が91%であった。	A (ゆめかな担当)	おおむね肯定的な評価であった一方で、学習活動が活発なグループ・生徒と停滞しているグループ・生徒とで学びのモチベーションの差が例年以上にあったように見受けられた。授業の形態や生徒への問い掛けの仕方を工夫していきたい。
	② 地元に着愛を持ってともに地域産業と連携し、地域の方々との活動を通して、人間関係力の向上を図る。 (総合学科)	地域の方々との活動を通して、人間関係力が身に付いたと実感できた生徒が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	生徒用にアンケート(4段階)実施とても実感した生徒は16.5%、実感した生徒は67.1%、あまり実感しなかった生徒は16.5% 実感しなかった生徒は0%、全体で83.6%であった。	A (総合学科)	昨年度に比べ、地域学や総合的な学習の時間を通して地域の方々との人間関係力が身に付いた生徒が増加した。一方で、とても実感した生徒が微減、あまり実感しなかった生徒が微増している。講演会や体験活動など、教員がサポートし、地域の方々の協力を得ながら人間関係力を身に付けさせていきたい。
	③ 進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	年度末進路状況において、年度当初の進学希望者の進路実現の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 公務員希望者の A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	国公立大希望者56名のうち17名、私立大7名のうち7名、大学校3名のうち1名、短大専門学校11名のうち11名が希望進路を実現した。(実現率47%) 公務員希望者10名のうち7名公務員就職をした。(実現率70%)	D (進路指導課) A (進路指導課)	国公立コースの生徒については、進路希望の実現に向けて指導・支援を行ったが、結果に結びつかないケースが多く見られた。振り返りを行い、次年度以降の指導に生かしたい。 現2年生12名の希望者に対しても、同様に指導したい。
	④ 個に応じた進学指導や就職指導の充実を図り、ミスマッチのない進路選択ができるように指導を進める。 (総合学科)	年度末進路状況において、年度当初の進学希望者の進路実現の割合が A:90%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 就職希望者の内定を A:12月までに100%を得た B:1月に100%を得た C:2月に100%を得た D:3月以降に100%となった	4月時点の進学希望者13名全員が、進学した。(実現率100%) 就職内定率100%は12月中に達成した。	A (進路指導課) A (進路指導課)	良好な結果である。 求人が多い中で、しっかりと企業選択をさせ、今後もミスマッチのない就職指導を続けたい。
学校関係者評価委員の評価	・ 個々の特出した力を見つけ、その特技を生かして伸ばしていけることが望ましい。先生方にもそのような指導をお願いしたい。				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	・ 学年団や進路指導課のみならず、部活動や「ゆめかなプロジェクト」など、様々な場面での生徒の取組状況を担任と共有し生徒の個性をきちんと把握し、生徒一人ひとりにあった指導を行う。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	最終評価	分析(成果と課題)及び次年度の扱い
4 効率的でかつ効果的な業務や指導法の改善による働き方改革の推進	① 生徒と向き合う時間を確保するために、会議や校内研修の効率化を図る。	事前に設定した時間内に会議が終了した割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	現段階で計10回の職員会議に対して、9回が勤務時間内に終了することができた。	A (全分掌)	会議資料の事前配布の徹底、1年通して、主担当が所要時間を設定し、円滑な会議の進行に協力していただいた。
	② 合理的・効率的・効果的に部活動を実施する。	週2日以上休養日を設け、土曜・日曜・祝日・振替休日において年間52日以上部活動休養日を実施した部活動の割合が A: 100% B: 95%以上 C: 90%以上 D: 90%未満	3月末に部活動年間実施報告で評価を行う。年間52日以上部活動休養日を100%の部活動が実施した。	A (生徒会)	次年度も各所で知恵を絞り、効率的な部活動運営を目指す。
	③ 業務改善に取り組んでいることを地域や保護者の方々に周知し理解を図る	地域や保護者の方々にに対して、教員の多忙化改善の取組について説明した回数が A: 5回以上 B: 3回以上 C: 1回以上 D: 0回	PTA総会、学校評価アンケートホームページに部活動の年間計画を掲載した。(計4回)	B (総務課)	次年度も周知する機会を設け、保護者に周知し理解を図りたい。
学校関係者評価委員の評価	・多忙化の改善について、学校の現状を保護者に理解してもらうことが必要。				
学校関係者評価委員の評価を踏まえた今後の改善策	・ワークライフバランスの実現をするための取組について、ホームページやPTAの諸会合を通してさらに理解を深めていく。				